

編集後記

早いもので、本誌が創刊されてからもう 1 年の 3 分の 2 近くが過ぎて、8 月号をお届けすることになった。3 カ月にわたる脊損の大特集でやや食傷気味になられたかもしれないが、多面にわたる脊損のリハビリテーションを深く理解するにはこれでもまだ論じ残した問題が少なくない位である。ともかく、これまでどこでもおこなわれたことのない規模の脊損のリハビリテーションの特集が完結したことを、力作をよせられた執筆者各位に厚く感謝したい。本号にはその他忙しい中を巻頭言を寄せていただいた水上勉氏をはじめ、それぞれすぐれた論文を得て充実した号となった。

さて、8 冊の雑誌をふりかえてみると、ようやく本誌にも、独特のカラーといったものができてきたように思う。もちろんまだ「総合とはいいながら医学にかたよっているではないか」、「固い論文が多すぎる」などの批判があるし、それもたしかに一面当たていよう。また 1、

2 号の鈴木論文、今田論文のような理論的な問題の考察を求める声も強い。リハビリテーションが技術論にばかりかたよって本来の理念や哲学を忘れてもらっては困るということであろう。実はわれわれとしても、そういうものをぜひ載せたいが、どなたに何を願ひしたらよいのか迷っているというのが実情である。適切な筆者を御推薦いただければ幸いである。

本誌はニュース・資料欄の充実ということをもひとつの目標としている。編集部が東京にあるので、国や都の関係の資料には比較的眼が届くが、それでも抜けている面があるし、地方自治体でもいろいろな報告書などが出されているはずであるが、そこまではなかなか手が廻らない。この点についても、ニュース・資料をお送りいただければこれほど嬉しいことはない。「読者の皆さんと一緒に作る雑誌」をめざして行きたいものである。

(上田 敏)

次号予告(1巻9号)

巻頭言	リハビリテーション医学の教育……………九州労災病院	天 児 民 和
特 集	職業リハビリテーション	
	心身障害者の職業的自立……………労働省職業安定局	道 正 邦 彦
	身体障害者職業復帰の諸問題……………厚生省社会局更生課	角 田 耕 一
	職業更生施設における対象者の実態と リハビリテーション……………貴峰荘職業更生センター	猿 田 武 彦
	ルポルタージュ：太陽の家……………兵庫リハセンター	沢 村 誠 志
研究と報告	脳性麻痺の上肢の協同運動と連合反応……………都神経科学総合研究所	中 村 隆 一
	吹田保健所における脳卒中 リハビリテーションクリニックの運営概要……………大阪府立成人病センター	小 池 晶 子・他
講 座	筋収縮のメカニズム(4)―生体力学と筋力―……………自治医大	大 井 淑 雄
	リハビリテーションと社会福祉(8) ―福祉制度・社会資源の活用―……………整肢療護園	大 塚 隆 二